

鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業又は中山間地域等鳥獣被害防止施設整備事業の評価報告（令和5年度報告）

事業実施主体名 井原市有害鳥獣被害防止対策協議会

1 被害防止計画の作成数、特徴等

イノシシやニホンザル、加えてアナグマ・ヌートリア等の中小獣類による被害が増加傾向にある。このことについて、市・県事業や国庫事業を活用し、防護柵設置の推進、及び有害鳥獣駆除班による捕獲や追い払いなど総合的に対策することとしている。
対象鳥獣：イノシシ、ニホンザル、ヌートリア、タヌキ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ニホンジカ、アナグマ、ハクビシン、アライグマ、アオサギ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、カワウ
計画期間：令和3年度～令和5年度

2 事業効果の発現状況

- 地域の体制整備
捕獲体制については、従来どおり猟友会井原分会・芳井分会・美里分会の各分会ごとの駆除班により実施。捕獲檻による有害鳥獣の駆除において、エサやり・檻の見回り・捕獲した場合の連絡等については、地域との合意・協力のもとで行っている。
- 被害防止効果
市単独事業による、侵入防止柵・捕獲檻設置助成や国庫事業を活用した集落柵の設置により、有害鳥獣による被害が軽減され、営農意欲の向上が期待される。今後、左記防護柵による被害軽減や有害捕獲により、被害金額や被害面積の低減につながっていくと考える。
- 捕獲状況
計画期間である令和3年度から令和5年度にかけての捕獲頭数は、全体として増加傾向にある。
- 人材育成状況
新規狩猟免許及び猟銃取得者に対し、取得費用の一部を助成することで、捕獲従事者の育成を図っている。

3 被害防止計画の目標達成状況

各年度とも被害金額の目標は達成されているが、令和4、5年度の被害面積の目標達成率は70％を下回っている。そのため、農地への侵入防止を中心として、今後も継続して被害防止対策を講じる必要がある。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	美星地域 井原地域	令和3年度	イノシシ	鳥獣被害防止総合支援事業(鳥獣被害防止施設整備(ワイヤーメッシュ柵))	13,013m	各地区(受益農家)	R4.2.28	100	有害鳥獣の侵入防止	8,830	8,359	148%	2.11	1.56	320%	防護柵の設置により、農作物被害を防止できる。	積極的な捕獲活動により、被害金額は目標を超える達成率となっているものの、被害面積は目標未達の状況となっている。 近年、サルによる被害拡大が続く、対応に苦慮されることが多いかと思うが、今後も、導入したGPS発信機等を有効に活用し、防護と捕獲を組み合わせた体系的な対策と狩猟者の確保・育成の取組により、主要作物のぶどう等の被害減少につなげて頂きたい。	被害面積は未達成だったが、被害金額は目標を達成できており、一定以上の成果が上がっている。 今後は、近年問題となっているサル等の獣種に対して、複合的な方法で対策に取り組んでいただきたい。
	美星地域 井原地域		イノシシ	鳥獣被害防止総合支援事業(イノシシ捕獲檻)	6基	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R4.3.16	100	有害鳥獣の個体数管理(ワイヤーメッシュ柵整備地区及び地区猟友会へ貸与)	8,830	8,359	148%	2.11	1.56	320%	防護柵と併せて設置することにより、捕獲効率を高める。		
	井原市内全域		ニホンザル	鳥獣被害防止総合支援事業(サル行動域調査用GPS首輪)	6基	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R4.3.7	100	ニホンザルの行動域の把握及び捕獲補助	8,830	8,359	148%	2.11	1.56	320%	地獄檻・小型捕獲檻により効率的な捕獲を行うため、位置情報を取得する。		
	井原市内全域		ニホンザル	鳥獣被害防止総合支援事業(サル行動域調査用GPS首輪用受信機一式)	2セット	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R3.12.27	100	ニホンザルの行動域の把握及び捕獲補助	8,830	8,359	148%	2.11	1.56	320%	地獄檻・小型捕獲檻により効率的な捕獲を行うため、位置情報を取得する。		
	井原市内全域		ニホンザル	鳥獣被害防止総合支援事業(サル行動補足用発信機)	3基	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R3.12.22	100	ニホンザルによる被害事前防除及び捕獲補助	8,830	8,359	148%	2.11	1.56	320%	サル群との距離を電波の受信強度から把握できるため、農地での追い払いや銃・小型捕獲檻での捕獲に利用する。		
	井原市内全域		ニホンザル	鳥獣被害防止総合支援事業(サル行動補足用小型発信機)	3基	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R4.3.7	100	ニホンザルによる被害事前防除及び捕獲補助	8,830	8,359	148%	2.11	1.56	320%	サル群との距離を電波の受信強度から把握できるため、農地での追い払いや銃・小型捕獲檻での捕獲に利用する。		
	井原市内全域		ニホンザル	鳥獣被害防止総合支援事業(トレイルカメラ一式)	5セット	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R4.3.11	100	ニホンザルの出没状況の把握	8,830	8,359	148%	2.11	1.56	320%	ニホンザルの出没状況を確認し、捕獲檻設置場所の検討に利用する。		
	井原市内全域		イノシシ(成獣) イノシシ(幼獣) ニホンザル(成獣) ニホンザル(幼獣) ヌートリア タヌキ アナグマ カラス類 ニホンジカ(成獣) ハクビシン アライグマ カワウ サギ類	緊急捕獲活動支援事業(有害捕獲)	776 262 77 37 186 84 179 35 8 2 14 3 3 計1,666	-	-	-	農作物被害の減少、有害鳥獣の個体数管理	8,830	8,359	148%	2.11	1.56	320%	猟友会との連携により有害鳥獣の捕獲に努めている。 今後も更なる被害軽減のために、効果的な対策を考えていく必要がある。		
井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	美星地域	令和4年度 (国R4当初予算分)	イノシシ	鳥獣被害防止総合支援事業(鳥獣被害防止施設整備(ワイヤーメッシュ柵))	5,767m	各地区(受益農家)	R5.2.27	100	有害鳥獣の侵入防止	8,830	5,477	442%	2.11	4.31	~780%	防護柵の設置により、農作物被害を防止できる。		
	美星地域		イノシシ	鳥獣被害防止総合支援事業(イノシシ捕獲檻)	5基	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R5.3.10	100	有害鳥獣の個体数管理(ワイヤーメッシュ柵整備地区及び地区猟友会へ貸与)	8,830	5,477	442%	2.11	4.31	~780%	防護柵と併せて設置することにより、捕獲効率を高める。		
	市内全域		ニホンザル	鳥獣被害防止総合支援事業(サル用小型捕獲檻)	6基	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R5.3.10	100	有害鳥獣の個体数管理	8,830	5,477	442%	2.11	4.31	~780%	ニホンザルの出没状況に合わせて、随時捕獲檻を移動させ、効率的に捕獲できる。		
	市内全域		ニホンザル	鳥獣被害防止総合支援事業(サル用地獄檻)	1基	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R5.2.16	100	有害鳥獣の個体数管理	8,830	5,477	442%	2.11	4.31	~780%	GPS情報から得られたサルの利用頻度が高い地点に設置し、一度に複数頭のサルを捕獲できる。		
	市内全域		ニホンザル	鳥獣被害防止総合支援事業(サル発信機用受信機)	5台	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R4.9.5	100	ニホンザルの行動域の把握及び捕獲補助	8,830	5,477	442%	2.11	4.31	~780%	地獄檻・小型捕獲檻により効率的な捕獲を行うため、位置情報を取得する。		
	市内全域		イノシシ(成獣) イノシシ(幼獣) ニホンザル(成獣) ニホンザル(幼獣) ヌートリア タヌキ アナグマ カラス類 ニホンジカ(成獣) ハクビシン アライグマ カワウ サギ類	緊急捕獲活動支援事業(有害捕獲)	807 270 31 19 245 90 300 29 15 6 12 7 9 計1,840	-	-	-	農作物被害の減少、有害鳥獣の個体数管理	8,830	5,477	442%	2.11	4.31	~780%	猟友会との連携により有害鳥獣の捕獲に努めている。 今後も更なる被害軽減のために、効果的な対策を考えていく必要がある。		
井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	美星地域	令和4年度 (国R3予算繰越分)	イノシシ	鳥獣被害防止総合支援事業(鳥獣被害防止施設整備(ワイヤーメッシュ柵))	7,730m	各地区(受益農家)	R5.2.27	100	有害鳥獣の侵入防止	8,830	5,477	442%	2.11	4.31	~780%	防護柵の設置により、農作物被害を防止できる。		

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	美星地域	令和5年度	イノシシ	鳥獣被害防止総合支援事業(鳥獣被害防止施設整備)	895m	各地区(受益農家)	R6.1.29	100	有害鳥獣の侵入防止	8,830	8,688	114%	2.11	3.22	~344%	防護柵の設置により、被害防止が期待できる	積極的な捕獲活動により、被害金額は目標を超える達成率となっているものの、被害面積は目標未達の状況となっている。近年、サルによる被害拡大が続き、対応に苦慮されることが多いかと思うが、今後も、導入したGPS発信機等を有効に活用し、防護と捕獲を組み合わせた一体的な対策と狩猟者の確保・育成の取組により、主要作物のぶどう等の被害減少につなげて頂きたい。	被害面積は未達成だったが、被害金額は目標を達成できており、一定以上の成果が上がっている。今後は、近年問題となっているサル等の獣種に対して、複合的な方法で対策に取り組んでいただきたい。
	美星地域		イノシシ	鳥獣被害防止総合支援事業(イノシシ捕獲檻)	1基	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R6.1.29	100	有害鳥獣の個体数管理(ワイヤーメッシュ柵整備地区及び地区猟友会へ貸与)	8,830	8,688	114%	2.11	3.22	~344%	防護柵と併せて設置することにより、捕獲効率を高める。		
	市内全域		ニホンザル	鳥獣被害防止総合支援事業(サル用小型捕獲檻)	6基	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R6.3.7	100	有害鳥獣の個体数管理	8,830	8,688	114%	2.11	3.22	~344%	ニホンザルの出没状況に合わせて、随時捕獲檻を移動させ、効率的に捕獲できる。		
	市内全域		ニホンザル	鳥獣被害防止総合支援事業(サル行動域調査用GPS首輪)	1基	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R5.11.17	100	ニホンザルの行動域の把握及び捕獲補助	8,830	8,688	114%	2.11	3.22	~344%	地獄檻・小型捕獲檻により効率的な捕獲を行うため、位置情報を取得する。		
	市内全域		ニホンザル	鳥獣被害防止総合支援事業(サル行動補足用発信機)	4基	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R5.11.17	100	ニホンザルによる被害事前防除及び捕獲補助	8,830	8,688	114%	2.11	3.22	~344%	サル群との距離を電波の受信強度から把握できるため、農地での追い払いや銃・小型捕獲檻での捕獲に利用する。		
	市内全域		ニホンザル	鳥獣被害防止総合支援事業(サル発信機専用受信機車載アンテナ)	5基	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R5.11.13	100	ニホンザルによる被害事前防除及び捕獲補助	8,830	8,688	114%	2.11	3.22	~344%	R4年度に導入した受信機に接続することで受信感度が向上し、信号を受信しやすくなる。また、車で移動しながら発信機からの信号を探索できる。		
	市内全域		ニホンザル	鳥獣被害防止総合支援事業(IoTカメラ)	5台	井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	R5.11.24	100	ニホンザルによる被害事前防除及び捕獲補助	8,830	8,688	114%	2.11	3.22	~344%	主に捕獲檻の監視に使用。市・猟友会駆除班が捕獲檻の状況、サルの出没状況やエサへの誘引状況をインターネットクラウド上で確認でき、捕獲効率の向上と見回り負担軽減につながる。		
	市内全域		イノシシ(成獣) イノシシ(幼獣) ニホンザル(成獣) ニホンザル(幼獣) ヌートリア タヌキ アナグマ カラス類 ニホンジカ(成獣) ハクビシン アライグマ カワウ サギ類	緊急捕獲活動支援事業(有害捕獲)	1,039 441 41 19 290 148 346 30 12 4 24 2 50 計2,446	-	-	-	農作物被害の減少、有害鳥獣の個体数管理	8,830	8,688	114%	2.11	3.22	~344%	猟友会との連携により有害鳥獣の捕獲に努めている。今後も更なる被害軽減のために、効果的な対策を考えていく必要がある。		

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

※達成率は(現状値-実績値)/(現状値-目標値)で計算) 現状値(R2被害金額)＝ 9,810 千円
現状値(R2被害面積)＝ 2.36 ha